



- ① りんごの生態は平年に比べ8日程度早く推移している状況です。
今のところ大鰐地域での平場の早い所では、第1回目の薬剤散布は4月16日頃から始まる見込です。
- ② 剪定作業は計画的に行い、第1回目の薬剤散布に支障がないよう早急にスプレーヤーの点検、通路確保など行いましょう。
- ③ ハダニ類が多い傾向ですので、粗皮削りは出来るだけ行い、マシン油はゆっくりていねいに散布しましょう。

りんごの生態

本年のりんごの発芽日は、平年に比べ8日程度早く進んでいる状況です。
 昨年は、発芽後から低温が続き発芽～開花期まで期間が長引きましたが、本年の4月の気温予報は平年並み～やや高く推移する見込みとなっております。
 下記を参考にし、適期散布に努めましょう。*()は、営農係での予想日です。

	品種・地点	年	発芽日	展葉日	開花日	
りんご研究所	王林	本年	3/29	(4/8)	(4/28)	
		昨年	3/27	4/8	5/3	
		平年	4/6	4/16	5/5	
	ふじ	本年	3/30	(4/9)	(4/29)	
		昨年	3/29	4/13	5/7	
		平年	4/7	4/18	5/7	
JA観測圃	王林	森山	本年	3/27	(4/6)	(4/26)
			昨年	3/27	4/7	5/2
		駒木	本年	3/31	(4/9)	(4/30)
			昨年	4/1	4/18	5/11
		碓ヶ関(古懸)	本年	3/31	(4/9)	(4/30)
			昨年	3/31	4/7	5/10
	ふじ	森山	本年	3/30	(4/9)	(4/29)
			昨年	3/29	4/14	5/7
		駒木	本年	4/2	(4/13)	(5/2)
			昨年	4/2	4/19	5/12
		碓ヶ関(古懸)	本年	4/2	(4/13)	(5/2)
			昨年	4/4	4/20	5/12

- 発芽日
頂芽の頂部が破れて、青みが現れたものを3ヶ以上認めた時。
- 展葉日
小さくても正しい葉形と認められる基葉が1枚でも認められたとき。
- 開花日
1～2花開花したとき。

マメコバチの出庫日

場所	出庫日	時間
長峰 りんごセンター	4/19(月)	午前9時～ 午前11時まで
碓ヶ関 りんごセンター	4/22(木)	

*搬入したセンターへ引き取りにお越しく下さい。

第1回目の薬剤散布

- ① 生態の早いところで4月16日頃から散布が始まる予想となっております。生態をよく観察し、適期散布を心がけましょう。
- ② スプレーヤーの点検整備、通路確保を早急に行い、園地が乾きにくいところなどは十分に気をつけて散布しましょう。
- ③ りんごの葉が展葉してから本格的に黒星病との戦いが始まります。降雨と共に黒星病に感染しますので、**降雨前に散布**しましょう。
また、散布ムラがあると感染しますので、**ゆっくり、ていねいに**散布しましょう。

回数	散布量	散布時期	【予想】散布日			対象病害虫	基準薬剤				防除の要点	
			森山など (生態の早いところ)	古懸 長峰 苦木 唐牛など	駒木 島田 (生態の遅いところ)		薬剤名と 混用順序	倍数	1,000ℓ当	収穫前 日数		使用 回数
1	300ℓ以上	ふじの展葉 1週間後頃	4/16頃～	4/20頃～	4/22頃～	モニア病、黒星病 腐らん病、リンゴハダニ ハマキムシ類、 クワコカイガラムシ キンモン、ギンモン	精製マシン油(97) ダーズバンDF ベフラン液剤	200 3,000 1,000	50 167g×2 500ml×2	展葉期 45日 展葉期	— 1回 開花前 3回	① 初期防除の重要な時期です。小さい葉が1枚でも展葉してから1週間後頃、降雨前散布です。 ② 近年、リンゴハダニが多くなってきましたのでゆっくり、丁寧に散布しましょう。 ③ 前年にクワコカイガラムシが多かったところはアプロードF1,000倍も使用しましょう。 ④ キンモン、ギンモンの発生が多いところは、ノーモルト乳剤4,000倍も使用しましょう。
特別散布 2	300ℓ以上	前回から 10日以内	低温傾向などで開花直前まで期間が開く場合や、多雨条件だった場合は特別散布を実施する。			黒星病、腐らん病 モニア病	展着剤 ベフラン液剤	1,000	500ml×2	展葉期	開花前 3回	
3	320ℓ以上	ふじの開花直前 前回から 10日以内	4/26頃～	4/30頃～	5/2頃～	黒星病、モニア病 腐らん病、うどんこ病 ミダレカクモン	展着剤 カナメF バイオマックスDF	4,000 2,000	250ml×1 500g×1	前日 前日	1回 —	

ベフランは最後に調合する。

●黒星病対策と散布時の留意点●

- 被害落葉の処理を行いましょう。
- 展葉初期から降雨があると黒星病に感染する恐れがあります。
6月いっぱいまでは、散布間隔は10日以内とし、降雨前散布を徹底しましょう。
- 散布ムラの無いようにしましょう(S/Sの速度・散布量の見直し、樹の混み具合を解消するなど)
- 霧、朝露などで葉が濡れている場合は乾いてから散布しましょう。
- 7月上旬の薬剤は散布時期が合うように特別散布などで調整しましょう。



ゆっくり
ていねい
降雨前散布!!